

「研医会図書館を訪ね、古典医書に触れる会」レポート 2024年7月2日実施

銀座ソニー通りに面した建物の中、近現代の眼科医書と医学関連の古い書物を所蔵する研医会図書館。会誌「くこ」に連載していただき、日本国際薬膳師会発行『一人で歩く中国医書の世界』の著者である、安部郁子先生が館長をつとめていらっしゃいます。古今東西、数多の古典医書に精通しておられる安部先生。今回、先生にセレクトしていただいた書物のほか、事前にリクエストした書物をご用意くださり、参加者9名をあたたく迎えてくださいました。

森立之校勘『神農本草経』、小野蘭山著『本草綱目啓蒙』、人見必大著『本朝食鑑』など、薬膳を学ぶ私たちにとって重要な中国古典籍をもとに日本語で刊行された本草書のほか、「近代外科の父」といわれるアンブロワーズ・パレの全集『Les Oeuvres d'Ambroise Paré (1614版)』、外科学と解剖学の教授で精緻な筋肉人図で知られるアンドレアス・ヴェサリウス原著『VESALIUS The illustrations from his works』。パレの整骨術は華岡青洲にも影響を与え、ヴェサリウスの図は欧州で写され続け、江戸や明治の日本の科学書にもコピーされてきたことを教えていただきました。ほかにも、安部先生が訪問されたアジアの地、インドネシアやタイの薬草や植物を用いた伝統治療薬の本などなど…。

長い年月を経て、研医会図書館に所蔵されている古典医書の数々。筆跡や印刷の様子、紙の手触り、匂い…。人が常に体と向き合い、体の調子を整えるために食物や植物を活用し、病気に対処しようと格闘しながら切り拓いてきた歴史。よりよいものを取り入れ、時に変化させ、伝え残そうという情熱は時代や地域を超えて脈々と繋がっていました。この度、古典医書に触れる機会を得て、真摯に、熱く薬膳を学ぶよう、令和に生きる自分の背中を押してもらったように思いました。

安部先生からいただいた言葉です。「医療や薬剤についての知識は、古代より、世界で共有される一番の情報かと思います。そうした広い視野で食や薬の世界を見て、さらに世界中の食材が手に入れやすい現代日本にいるメリットを利用して、美味しくて身体によいお食事作りに活かしていただければと思っています。」

図書館の開館日は火・水・金曜日。お訪ねの際は必ず事前にご連絡してください。（交流部 吉開記）



『Les Oeuvres d'Ambroise Paré (1614版)』(写真手前)



『本朝食鑑』



『本草綱目啓蒙』



アジア各国の植物・薬草関連の書物



傷寒論に関する書物が並ぶ書架